

スーパーグローバル大学創成支援事業

平成30年度実施予定の中間評価結果を踏まえた発展的構想見直しについて（案）

1. 背景

スーパーグローバル大学創成支援事業については、公募要領において、「事業開始から5年目の平成30年度には、その前年度の中間評価の結果も踏まえ、より有意義な事業の実施に資する、発展的な構想の見直しができる機会を設ける予定」としている。

10年という取組期間は一時代であり、急激に進展するグローバルな時代展開から考えても予見が難しいため、部分的には設定した目標値の下方修正も認めつつ、一部は上方修正する等、構想全体の発展性を損なわない形で、より現実的な構想とすることを認めるもの。

【参考：公募要領（抜粋）】

2. 事業の概要 Project Overview

(7) 事業の評価等 Project Evaluation

毎年度ごとのフォローアップ活動（後述の「中間評価」実施年度は除く。）に加え、支援開始から4年目の平成29年度と7年目の平成32年度に中間評価、支援終了後（支援開始から11年目の平成36年度）に事後評価を実施する予定です。これらのフォローアップ活動及び中間評価の結果は、翌年度の補助金の配分に勘案されるとともに、事業目的、目標の達成が困難又は不可能と判断された場合は、事業の中止も含めた計画の見直しを行うことがあります。これらの評価等については、委員会（12頁参照）で定める評価方法、基準等に基づいて行われます。

また、事業開始から5年目の平成30年度には、その前年度の中間評価の結果も踏まえ、より有意義な事業の実施に資する、発展的な構想の見直しができる機会を設ける予定です。

【参考：Q&A（抜粋）】

Q6-4 事業開始から5年目に実施する、発展的な構想の見直しとは、具体的にどのようなことか。

A. 本事業では、10年後に在るべき姿を見据えて計画を立てていただきますが、10年という期間は一時代であり、また急激に進展するグローバルな時代展開から考えても予見が難しいため、部分的には設定した目標値の下方修正も認めつつ、一部は上方修正する等、構想全体の発展性を損なわない形で、より現実的な構想とすることを認めるものです。なお、原則は申請時の構想を着実に実施することであり、安易な設定目標の下方修正は認めません。

2. 構想見直しの方向性について（案）

（1）構想の見直し

各大学が、中間評価結果を踏まえた構想の見直しを希望する場合は、事務局に所定の様式により届け出し、中間評価を担当した委員を中心とする有識者が届け出のあった見直し後の計画について事前に確認を行い、プログラム委員会において審議の上、構想の補正の可否を決定する。この際、以下の点に留意する。

- ① 構想全体の発展性を損なわないこと
- ② 原則は申請時の構想を着実に実施することであり、安易な設定目標の下方修正は認めない。

※ 具体的な実施方法は「3. 構想見直しの手順について」の通り

（2）成果指標設定の見直し

各選定大学においては、以下の各観点について、当初公募時に計画した内容に基づいて事業を実施している。

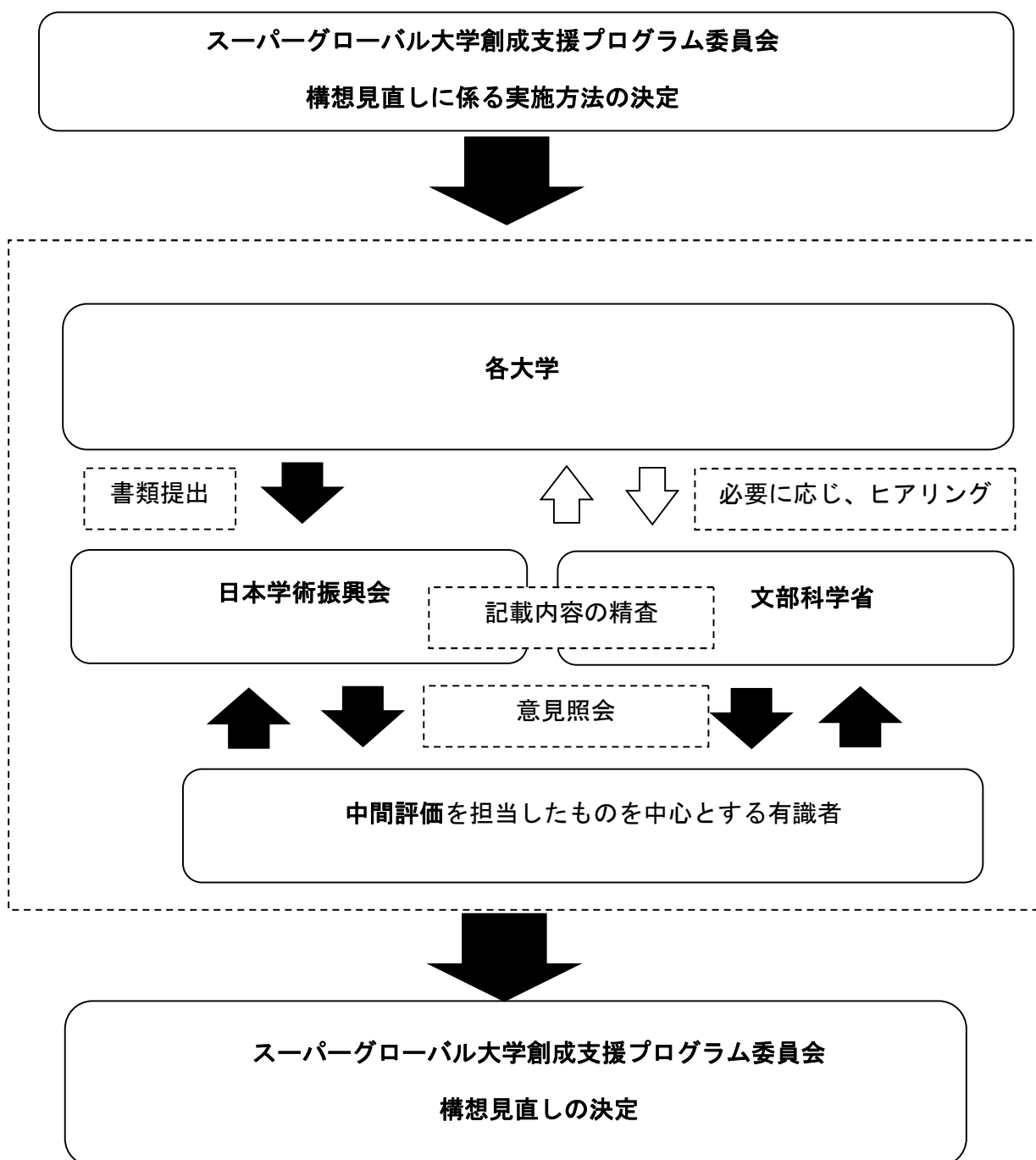
- 共通観点1 創造性、展開性等
- 共通観点2 共通の成果指標と達成目標（41項目）
- 共通観点3 大学独自の成果指標と達成目標
- 共通観点4 構想実現のための体制構築
- 個別観点A-1 国際的評価の向上
- 個別観点A-2 国際的評価に関する教育・研究力
- 個別観点B 大学の特性を踏まえた特徴

厳しい財政事情を背景に本事業の予算も逡減し限られた予算を効率的に活用する観点からも、大学として本事業で取り組む内容について重点化が必要。こうした観点から、現在41項目ある「共通観点2」の成果指標について、今後も全選定大学が共通して取り組む必須評価項目と各大学が見直し後の構想を踏まえて設定する選択評価項目に分別することとし（別添参照）、今後実施予定の中間評価及び事後評価は、必須評価項目及び各大学が設定する選択評価項目に基づいて実施する。

3. 構想見直しの手順について

構想の見直しは、以下の手順を進めることを想定。

- (1) 各大学から中間評価結果を踏まえた構想見直し（案）を日本学術振興会に提出。
- (2) 事務局において、記載内容等を精査。
(必要に応じ、文部科学省から各大学担当者に対してヒアリングを行う)
- (3) 中間評価を担当したものを中心とする有識者への意見照会。
- (4) プログラム委員会において審議。
- (5) 審議結果を各大学に通知。



4. 想定スケジュール

- 3月以降 各大学への通知
- 5月中旬頃 フォローアップ関係資料受付
- 6月～8月 事務局にてとりまとめ、記載内容等を精査
- 8月～9月 中間評価を担当したものを中心とする有識者への意見照会
- 10月頃 プログラム委員会において審議
- 11月頃 各大学宛て結果通知

(別添)

必須評価項目	選択評価項目	(参考) 数値目標の 有無	項目
○			共通観点1 創造性、展開性等
○		有	共通観点2 共通の成果指標と達成目標 1. 国際化関連 (1) 多様性 ①教員に占める外国人及び外国の大学で学位を取得した専任教員等の割合
○		有	共通観点2 共通の成果指標と達成目標 1. 国際化関連 (1) 多様性 ②職員に占める外国人及び外国の大学で学位を取得した専任職員等の割合
	○	有	共通観点2 共通の成果指標と達成目標 1. 国際化関連 (1) 多様性 ③教職員に占める女性の比率
○		有	共通観点2 共通の成果指標と達成目標 1. 国際化関連 (1) 多様性 ④全学生に占める外国人留学生の割合
○		有	共通観点2 共通の成果指標と達成目標 1. 国際化関連 (2) 流動性 ①日本人学生に占める留学経験者の割合
○		有	共通観点2 共通の成果指標と達成目標 1. 国際化関連 (2) 流動性 ②大学間協定に基づく交流数
○			共通観点2 共通の成果指標と達成目標 1. 国際化関連 (3) 留学支援体制 ①日本人学生の留学についての支援体制の構築
○			共通観点2 共通の成果指標と達成目標 1. 国際化関連 (3) 留学支援体制 ②外国人留学生等の支援体制の構築
○		有	共通観点2 共通の成果指標と達成目標 1. 国際化関連 (4) 語学力関係 ①外国語による授業科目数・割合
○		有	共通観点2 共通の成果指標と達成目標 1. 国際化関連 (4) 語学力関係 ②外国語のみで卒業できるコース
○			共通観点2 共通の成果指標と達成目標 1. 国際化関連 (4) 語学力関係 ③日本語教育の充実
○		有	共通観点2 共通の成果指標と達成目標 1. 国際化関連 (4) 語学力関係 ④学生の語学レベルの測定・把握、向上のための取組
○		有	共通観点2 共通の成果指標と達成目標 1. 国際化関連 (5) 教務システムの国際通用性 ①ナンバリング実施状況・割合
	○		共通観点2 共通の成果指標と達成目標 1. 国際化関連 (5) 教務システムの国際通用性 ②GPA導入状況
○		有	共通観点2 共通の成果指標と達成目標 1. 国際化関連 (5) 教務システムの国際通用性 ③シラバスの英語化の状況・割合
○			共通観点2 共通の成果指標と達成目標 1. 国際化関連 (5) 教務システムの国際通用性 ④教育プログラムの国際通用性と質保証
○			共通観点2 共通の成果指標と達成目標 1. 国際化関連 (6) 大学の国際開放度 ①柔軟な学事暦の設定の有無
	○		共通観点2 共通の成果指標と達成目標 1. 国際化関連 (6) 大学の国際開放度 ②入試における国際バカロレアの活用
	○		共通観点2 共通の成果指標と達成目標 1. 国際化関連 (6) 大学の国際開放度 ③渡日前入試、入学許可の実施等
	○	有	共通観点2 共通の成果指標と達成目標 1. 国際化関連 (6) 大学の国際開放度 ④奨学金支給の入学許可時の伝達
	○	有	共通観点2 共通の成果指標と達成目標 1. 国際化関連 (6) 大学の国際開放度 ⑤混住型学生宿舎の有無
	○		共通観点2 共通の成果指標と達成目標 1. 国際化関連 (6) 大学の国際開放度 ⑥海外拠点の数及び概要
	○		共通観点2 共通の成果指標と達成目標 1. 国際化関連 (6) 大学の国際開放度 ⑦外国人留学生OBの積極的活用
	○		共通観点2 共通の成果指標と達成目標 1. 国際化関連 (6) 大学の国際開放度 ⑧外国語による情報発信等

必須評価項目	選択評価項目	(参考) 数値目標の 有無	項目
○		有	共通観点2 共通の成果指標と達成目標 2. ガバナンス改革関連 (1) 人事システム ①年俸制の導入
	○	有	共通観点2 共通の成果指標と達成目標 2. ガバナンス改革関連 (1) 人事システム ②テニュアトラック制の導入
	○		共通観点2 共通の成果指標と達成目標 2. ガバナンス改革関連 (1) 人事システム ③国際通用性を見据えた人事評価制度の導入・活用
○			共通観点2 共通の成果指標と達成目標 2. ガバナンス改革関連 (1) 人事システム ④国際通用性を見据えた採用と研修
○		有	共通観点2 共通の成果指標と達成目標 2. ガバナンス改革関連 (2) ガバナンス ①事務職員の高度化への取組
	○		共通観点2 共通の成果指標と達成目標 2. ガバナンス改革関連 (2) ガバナンス ②具体的ビジョン、中期計画等の策定
	○		共通観点2 共通の成果指標と達成目標 2. ガバナンス改革関連 (2) ガバナンス ③迅速な意思決定を実現する工夫
	○		共通観点2 共通の成果指標と達成目標 2. ガバナンス改革関連 (2) ガバナンス ④意思決定機関等への外国人の参画
	○		共通観点2 共通の成果指標と達成目標 2. ガバナンス改革関連 (2) ガバナンス ⑤IR機能の強化・充実
	○		共通観点2 共通の成果指標と達成目標 3. 教育の改革的取組関連 (1) 教育の質的転換・主体的学習の確保 ①学生の実質的学びの時間の確保に関する取組
	○	有	共通観点2 共通の成果指標と達成目標 3. 教育の改革的取組関連 (1) 教育の質的転換・主体的学習の確保 ②学生の主体的参加と大学運営への反映の促進
	○		共通観点2 共通の成果指標と達成目標 3. 教育の改革的取組関連 (1) 教育の質的転換・主体的学習の確保 ③TA活用の実践
○		有	共通観点2 共通の成果指標と達成目標 3. 教育の改革的取組関連 (2) 入試改革 ①TOEFL等外部試験の学部入試への活用
	○		共通観点2 共通の成果指標と達成目標 3. 教育の改革的取組関連 (2) 入試改革 ②多面的入学者選抜の実施
	○		共通観点2 共通の成果指標と達成目標 3. 教育の改革的取組関連 (3) 柔軟かつ多様なアカデミック・パス ①柔軟な転学科・転学部、Late Specialization等
	○		共通観点2 共通の成果指標と達成目標 3. 教育の改革的取組関連 (3) 柔軟かつ多様なアカデミック・パス ②早期卒業・入学、5年一貫制課程等
	○		共通観点2 共通の成果指標と達成目標 4. その他 (1)教育情報の徹底した公表
○		有	共通観点3 大学独自の成果指標と達成目標
○			共通観点4 構想実現のための体制構築
○			個別観点A-1 国際的評価の向上
○			個別観点A-2 国際的評価に関する教育・研究力
○			個別観点B 大学の特性を踏まえた特徴